平成３０年度　幼・保・小連携推進事業

第2回幼・保・小合同研修会

と　き　平成３０年６月２２日（金）午後３時～午後４時４０分

ところ　郡山市総合福祉センター５階集会室

講演・演習「自閉症のある子どもの理解と支援」

独立行政法人　国立特別支援教育総合研究所

インクルーシブ教育システム推進センター主任研究員　柳澤　亜希子　先生

講師の柳澤先生は、国立特別支援教育総合研究所に勤務されており、自閉症教育研究班において、平成２８年から２９年にかけて自閉症に関する基幹研究をされました。今年度は、実践研究を通して自閉症のある子どもの指導目標の設定(見直し)において大切にすべきポイントを明らかにし、リーフレット「自閉症のある子どもの指導目標の設定・見直しにおけるポイント～子どもの主体的な学びを引き出すために～」を作成されました。本日は「自閉症のある子どもの理解と支援」という内容で、教育講演を行いました

☆幼稚園・保育所（園）・認定こども園・小学校の先生等１００名が参加しました。

☆柳澤先生は、具体的に事例を示しながら、分かりやすくお話をされ、参加者は熱心にメモを取りながら聞いていました。

1　講演内容

1）自閉症のある子どもを理解するための基本特性

2）自閉症のある子どもへの支援

3）自閉症のある子どもと大人との相互的な関わりの重要性～事例から考える～

4）小学校への円滑な接続に向けて

5）保護者理解と支援

先生の悩み

・子どもの行動の背景を考える。

・自閉症の子は、特定のことにこだわる。やり取りのきっかけになったりしていく。
人との関わりが難しい。→環境を整えること・関わり方（人的環境）を考える。

・気になる行動ばかりに目が行きがちだが、良さを引き出しながら関わっていくことが大切。

自閉症のある子どもに見られる姿

・視線が合わない　・声を掛けても応じない　・一人で遊んでいる　・独り言
・突然走り出す　・ごっこ遊びをしない

自閉症のある子どもを理解するための基本特性

（１）　社会的相互交渉の障がい・・・人とのやり取りが難しい。人の気持ちを察することが難しい。
（２）　コミュニケーション障がい・・・自分のことをずっと話す。
（３）　興味関心が狭く特定のものにこだわる。・・・知的障害を伴う子もいる。
（４）　感覚面の過敏性・鈍感性
- 一人一人の子どもによって示すものが違う。
- 自閉症のある子にとっては、不快なことが不安になる。
- 普通の感覚では気にならないものなので、気付けないことがある。

※例えば「音が苦手」な子にとって、どんな音が苦手なのか、その子にとっての苦手さは何なのかをつかんで対応することが大事。

（５）　認知面に見られる特性　－中枢性統合機能の弱さ－
・細部に目が行き、全体を捉えることが難しい。→　優れた能力として捉えることができる。
福島　尚氏・・・一度見たものを記憶して、記憶をたどって絵を描く。
（観察力・認知力）得意な部分をどう生かしていけばよいか。

◇早期からの支援の重要性・・・早期支援は発達を促す意味で大切。

◇自閉症のある子どもへのアプローチの方向性・・・原因を正しく理解する。
特性を正しく理解する。
・きちっとしたプログラムの中で繰り返し関わる。
療育センターなどで教えたスキルが身についているか。
↓
保育所等環境が変わると発揮できない
↓
普段の生活の中で発揮できることが大切。

やらされていることに対して、楽しい・理解できるのか。
主体性（やりたい気持ち、動機付け）が大切。
↑
大人の関わり方が大切。相互の関わりが大切。
その子の発達段階を踏まえながら関わっていく。

≪重視すべきこと≫
・感情や情動といった内面に働きかけることを基本とする。
・その子は何を考えているのか。～思いを汲み取ることは難しいが、理解をする上では大切。
・関心のあることをきっかけに対応していく。（言葉・表情・何を求めているのか）

自閉症のある子どもの特性を踏まえた環境設定の工夫

〇落ち着いて生活行動ができるような環境（どこで何をするのかがわかる）
〇見通しがつかないことには不安を抱く。流れを確認し、理解して行動する。
〇言葉だけでなく視覚的に示すことで、やらなくてはならないことが理解できる。
主体的に動くための手がかりになる。
〇昨日やったことを提示する。（過去の出来事を振り返る）
自分自身を理解する。先生とのコミュニケーションをとる。
〇安心できる場所つくり。気持ちが落ち着かなくなったときにクールダウンする所。
落ち着いたときに悪いことをしてしまったという気持ちを持つ。（自尊心を傷つけてしまう）その子にとっても周りの子にとっても大事。
〇子どもの発達に応じた環境設定
適度な刺激＝必要な刺激はある＝目的を持った提示
特性に縛られすぎない～その子にとっての刺激を与える
〇子どもの興味関心を尊重する。夢中になれることを大切にする。将来を見据えた上でも大切になる。
〇その子がしている行動が何でなんだろうと考えることが大切。
推測→考える→関わる　ていねいな関わり→気持ちを捉える（視線・表情・動作）
段階を追って関わっていく。
〇自閉症のある子の発達を促すうえで大切なこと
・身近な大人に対して安心感を持つ（人的環境）
活動の意味がわかる・・今自分が何をやっているのかがわかることが大事。
やってみたいと思える。大人の関わり。こちら側の思いが強すぎてはいけない。
・楽しい、心地よいと思える関わりを経験する、共有する。
〇小学校につないでいきたい情報
★困難さ　★子どもの興味関心、得意なこと　★できつつあること（良い部分）
★安心できる環境　★上手くいった支援方法
〇保護者理解と支援
直面している難しさについて、先生と保護者で考えるということが大切。
積み重ねていく。信頼関係を結ぶことが大切。親の心情・家庭環境に違いがある。

《アンケートから》

・自閉症のある子どもの感情や情動に目を向け、主体性や意欲を持たせることが大切だとわかりました。
・教師→子どもだけでなく、教師⇔子どもの双方向の関わりを作っていきたいと思いました。
・できないことだけを見るのではなく、できる部分・得意なことにも目を向けることが大切だと気付かされました。
・悪いことをしてしまった後の心のケアが重要。確かに周りの子への配慮ばかりになり、自閉症の子のケアが遅れてしまいがちでした。今後の指導に生かしていきたいと思います。
・幼稚園勤務後、小学校の支援学級の担任をしました。内面や気持ちを尊重してきましたが、そのやり方では交流学級をしたときに同じことができないと言われました。
講演の中でスキルばかりにとらわれてはいけないとありましたが、そのことをもっと広めてほしいと思いました。
・担任している子にぴたりと当てはまるお話で、参考になりました。型にはまった支援ではなく、柔軟性のある支援でよいというお話をいただき、現在の支援の方向に自信を持って取り組んでいきたいと思いました。
・子どもが何に興味関心があるか、何を求めているのか情緒面にそって関わることがとても大切だということが心に残りました。